

NPO 哲学道場

哲学道場活動紹介

日本唯一最大規模の民間哲学討論会

哲学道場世話役 深草周

2009/12/06

概要

哲学道場は民間の哲学研究促進を目的として活動する NPO です。2005 年から京都を中心に全国 6 ヶ所、86 回にわたり談論風発・自由闊達・百家争鳴の哲学討論会を開催しております。

名称	哲学道場
活動内容	主に世界各地で哲学の討論会を開くことを通じて 哲学の民間研究の活発化に貢献する
活動資源	有志によるボランティア及び関係団体による資金援助
活動地域	日本(京都府・東京都・岡山県・静岡県・愛知県・長崎県)
活動発足年	2005 年
関係団体	STUDY UNION NPO 法人日曜大学 浜松雑談哲学勉強会 京都数学研究会 気軽に哲学@愛知 モノログス
世話役(代表)	深草 周

目次

概要.....	2
問題意識と活動目的	4
活動目標	5
活動状況	7
活動関係者.....	11
哲学道場全体.....	11
哲学道場高円寺.....	11
京都哲学道場.....	11
岡山哲学道場.....	11
浜松哲学道場.....	11
名古屋哲学道場.....	12
外部組織との関係.....	13
NPO スタディユニオンとの関係.....	13
NPO 法人日曜大学との関係.....	13
浜松雑談哲学勉強会との関係.....	14
NPO サポート事業モノログスとの関係.....	14
京都数学研究会との関係	14
気軽に哲学@愛知との関係.....	14
今後の課題.....	15

問題意識と活動目的

当道場は**アマチュアによるアマチュアのための哲学研究促進**を目的としております。この目的を達成するために様々な方策があり得るかと思いますが、当道場では具体的な方針として、「哲学に関心はあるが、周囲に議論相手が見つからない」といった方々のニーズに答えることを目指しております。こうしたニーズがなぜ起こるのか、簡単に分析しますと三点ほど要因があるかと思いますが、以下にこれらの要因に対して哲学道場に何ができるかという観点から記述いたします。

第一に、日本においては学問としての哲学や哲学史について話せる場所が少なく、哲学に強い関心がある方が各地に点々といえるにもかかわらず彼（彼女）らが集まって気軽に交流できる場所がほとんどありません。とりわけ、アカデミズムの外や地方で哲学に関心をもたれた場合、特定の思想や宗教を超えたかたちで気軽に集まれる場所や機会が不足していると考えます。当道場は全国規模で開催しておりますし、経済的制約を除けば、常に全国どこでも開催する用意がございます。また、特定の思想・宗教・科学・学説・感性に執着することなく、飽くまで実務的な観点から多彩な方々をお相手できる実力を備えています。

第二に、確かに行政や大学などが開催する哲学関係のイベントなどはございますが、多くは有識者のシンポジウムや講義といった形式で、「先生・生徒」のような上下関係を前提としたものとなっています。そういった形式にも確かにそれなりに社会的・教育的な意義がありますが、それで満足できない方、むしろ自分の哲学を叩きつけたい・切れ味を試したいという方も潜在的にはおられるのではないのでしょうか。そういったニーズに応えるため、当道場は原則として参加者は全員論者として対等な立場から出発すること、言わば「哲学格差の是正」を志向しております。発表は単なる共通テーマの提供のためか、ないしは参加者全員で発表内容を検討する叩き台であって、上下関係を前提とした知識の伝授を主目的とするものではありません。

第三に、情報インフラやインターネットの急速な発達が挙げられます。これらの発達によって、複雑な社会全体を見渡せる（かのような）視点を私たちは獲得しつつあります。こうしたことで哲学や社会諸科学への間口は広くなりましたが、一方でその哲学に関する知見を実際に運用できるのも Web 上のみという方も多くなったのではないのでしょうか。確かに Web 上では不特定多数に向けて自分の思想・哲学を発信できますが、同時に電子メールや Web 上の掲示板での齟齬や諍い、「炎上」なども表面化しています。Web 上でのコミュニケーションでは哲学や思想にとって本質的でない些細なところで感情的なやりとりになることがよくありますし、顔がみえない相手に対する不信感も大きくなる恐れがあります。哲学道場は Web を活用し、活動を拡大しますが、活動の基礎は飽くまで対面のコミュニケーションにあるという姿勢で進めております。

哲学道場活動紹介

以上三点——自由に哲学する場所の提供・対等な議論環境・対面コミュニケーションの提供——をすべて満たす活動は日本に哲学道場において他に確認できておりません。また存在するとしても当道場のように 2005 年以来、足かけ 5 年にわたり、全国 6 箇所において実績を持つ活動は存在しないと自負しております。

活動目標

哲学道場の目的は上記のように形式的なものに留まり、参加者が実際に議論する内容について干渉しようとするものではありません。しかし一方で運営上・実務上の目標ないし指標として下記のようなもの（目標マトリクス）を持っております。

	量的な拡大	質的な向上
ひと	より多くの参加者数 より多くの協力者数	参加者の議論や経験の蓄積 異質な文化を持った方の参加 現地主催者の育成
開催地	より多くの場所で開催	異なる文化圏(外国)での開催
会場	十分な収容人数の確保	備品の確保(白板や投影機など) 交通アクセスの利便性
成果物	より多くの資料・要約の蓄積 より多くの引用回数 より多くの書籍・雑誌発行	資料の公開 資料のマルチメディア化(動画など) 再利用性(引用可能性)の向上
特別企画	より多くの方が参加可能な企画立案 多種類の企画立案	企画目標の達成 哲学道場としての公益性
社会的影響	成果物の引用回数 メディアへの登場頻度	アカデミズムとの関係 ビジネス界との関係 人材の輩出 国際性

哲学道場活動紹介

以下、この目標マトリクスに沿って一行ずつみて参ります。

第一に、「ひと」ですが、これは文字通り哲学道場に関する個々人の方の人数の増加と質的な向上です。

第二に、「開催地」ですが、より多くの方に参加の機会を提供するためにより多くの場所で開催すること、また異質な参加者を取り入れるために異質な文化圏にまたがって開催することを望ましいとしています。

第三に、「会場」ですが、これは十分な収容人数（多過ぎると一人当たりの発言時間が短くなるという制約があります）と哲学的な構造を表現し共有するための備品の確保が重要となります。経験上、ホワイトボードがないと議論しにくいと感じることが多いです。

第四に、「成果物」ですが、非常に大きな目でみれば「文化」と呼ばれるものは相互引用によって成り立つ人類全体の共同作業であると言えるわけで、哲学道場で作成・使用したレジュメや論文、発行書籍などもそうした大きな意味での共同作業に資するものでありたいと思います。量的な増大を目指すのはもちろんのこと、後からみてわかりやすい・使いやすい高品質な成果物を残せることが望ましいと考えます。

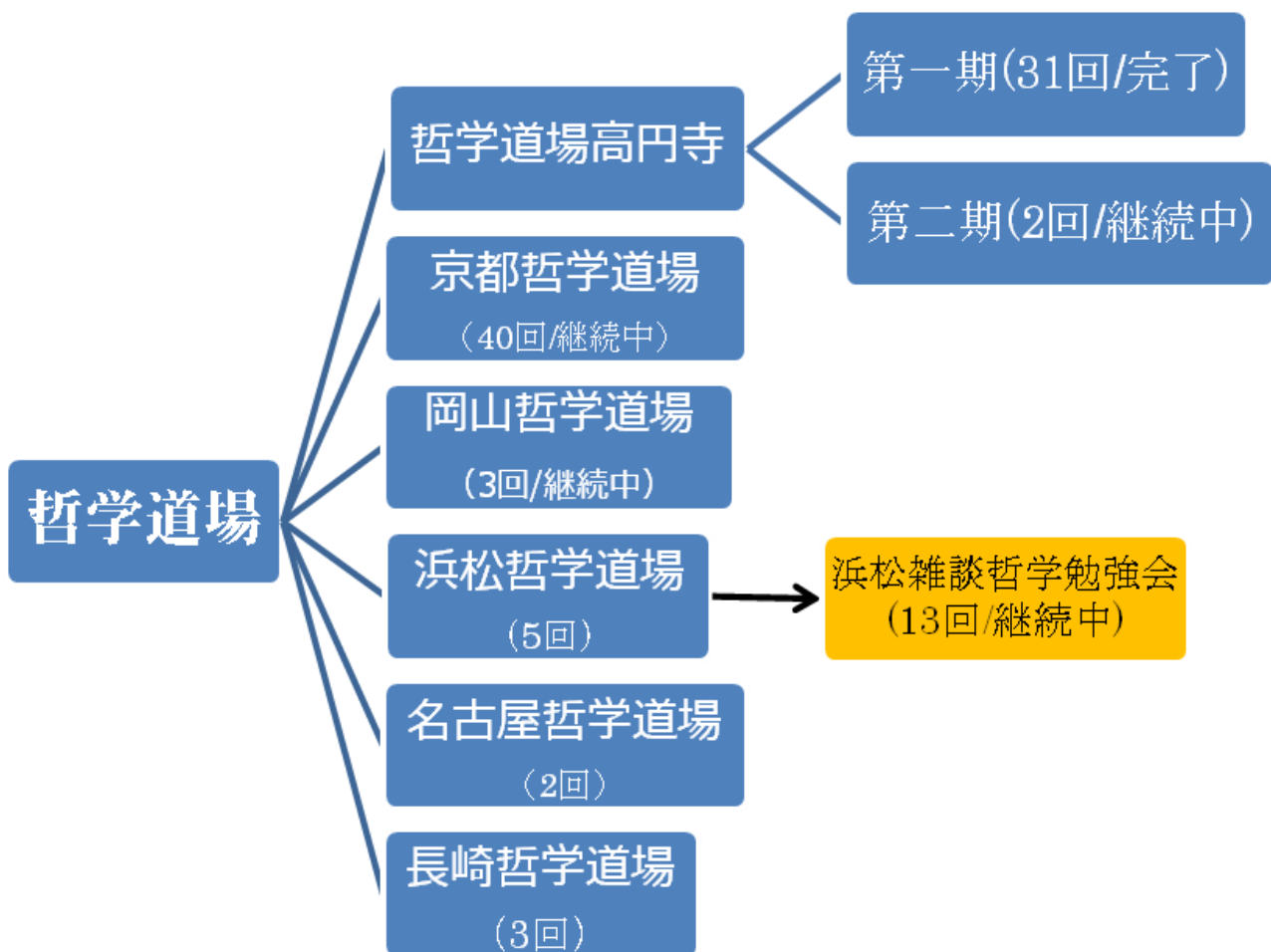
第五に、「特別企画」ですが、哲学道場の通常の例会以外の活動を指しております。2009年に企画した「哲学書ランキング」がこれに相当いたします。こうした活動は通常の例会に何らかの事情で参加が困難な方にも参加可能で、かつ哲学道場の趣旨にも沿うようなかたちで実施することがより望ましいと考えます。

第六に、「社会的影響」ですが、これは対外的な影響力やメディアへの露出、社会貢献性を意味しています。哲学道場の中で培われたひと・ものが外部のアカデミズムやビジネス界、日本政府や外国にとっても有効活用可能であることが望ましいと考えています。

これらの諸目標について、まだまだ実現していないもの、実現の目処が立たないものも多々ありますし、必ずしも均等にリソースを割くべきものでもありませんが、当道場の活動の指標を示すものとしてご理解いただきたいと思ひます。

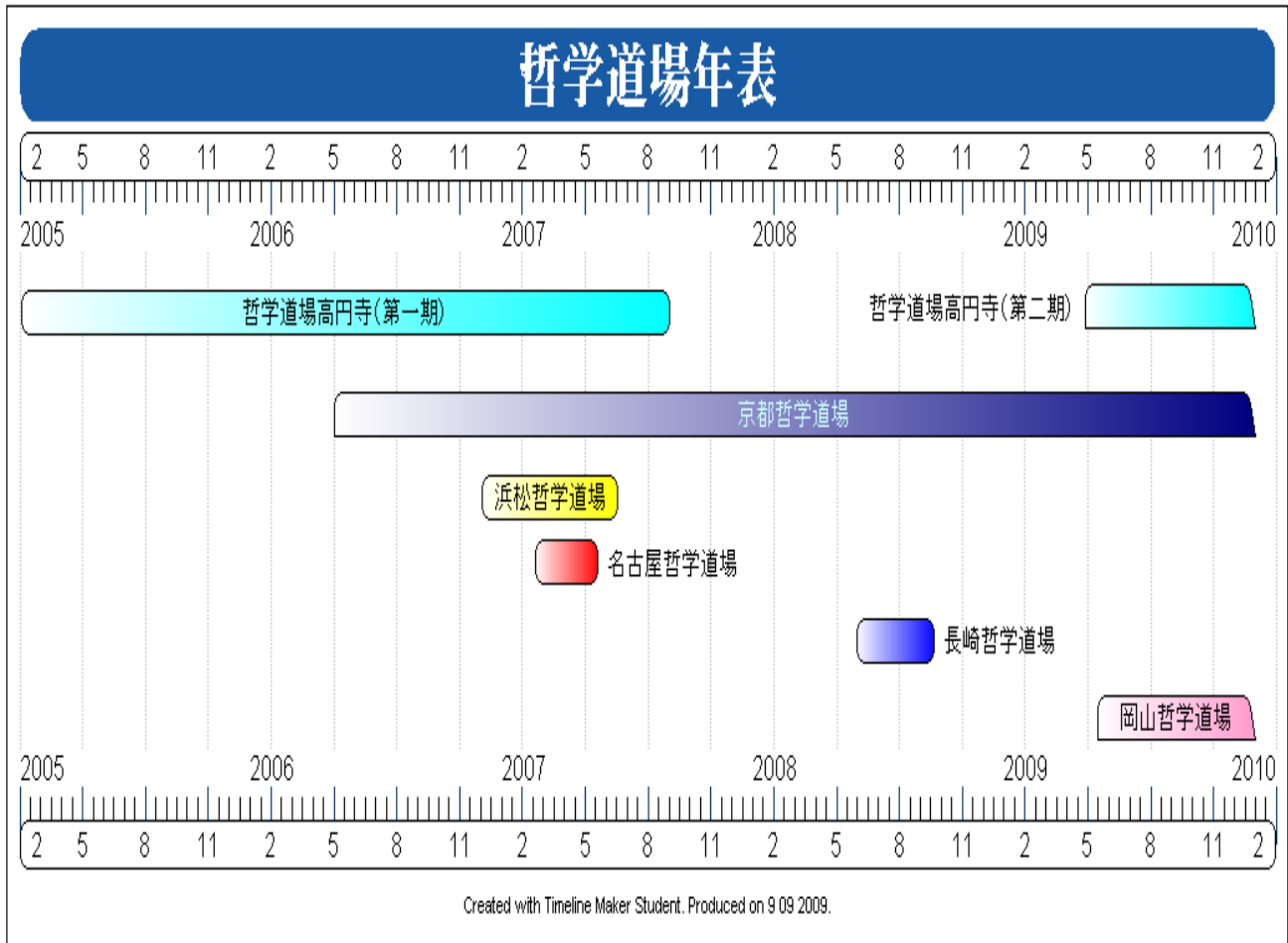
活動状況

当道場は、西は長崎から東は高円寺まで 6 箇所にわたる開催実績を持ち、2009 年 12 月現在では京都市・岡山市・東京都で開催しています。全体の開催回数については本日の第 2 回哲学道場高円寺（第二期）にて通算 86 回を数えます。また下図にあります「浜松雑談哲学勉強会」については浜松哲学道場の活動に刺激を受けて 2008 年より当道場から独立に活動されているものです。



哲学道場活動紹介

2005年2月発足以来の各地の開催状況を年表に表すと下記の通りです。毎週いずれかの地域で開催していた時期もありましたが、現在は京都市以外の地域では四半期に一度を目処に実施しております（もちろん現地の方にもっと中心になっていただいて、各地で毎月開催になるのが望ましい形態です）。



哲学道場活動紹介

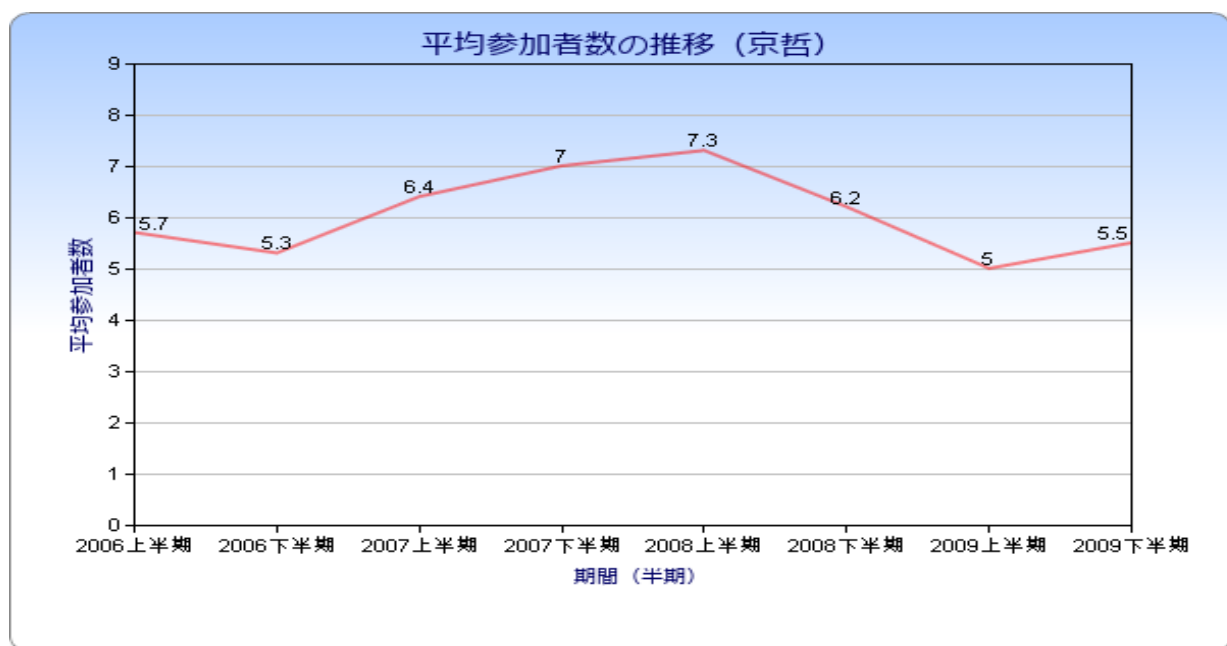
これまでの開催テーマは下記の通りです。全体として形而上学や社会認識論に関するものが多いようです。

開催地	開催回	テーマ	開催地	開催回	テーマ
高円寺	1	世界観	京都	1	パース
高円寺	2	根拠	京都	2	シジウィック
高円寺	3	対象	京都	3	風景
高円寺	4	<不明>	京都	4	存在論／時間論
高円寺	5	存在について	京都	5	秩序／根拠
高円寺	6	<不明>	京都	6	オッカム
高円寺	7	共同主観性の存在論的基礎	京都	7	プランティンガ
高円寺	8	実在論と唯名論	京都	8	ウイトゲンシュタイン
高円寺	9	感覚	京都	9	分離脳
高円寺	10	ゲーテの色彩論	京都	10	中島義道批判
高円寺	11	「私」と世界	京都	11	無の分類
高円寺	12	二元論	京都	12	善悪
高円寺	13	フィクショナルな実体としての認識	京都	13	幸福
高円寺	14	道徳	京都	14	ラッセルのパラドックス
高円寺	15	視覚	京都	15	心身問題
高円寺	16	意識	京都	16	ウイトゲンシュタインⅡ
高円寺	17	世間	京都	17	確率と認識
高円寺	18	生命	京都	18	東浩紀『存在論的、郵便的』
高円寺	19	理性	京都	19	科学哲学とトマス・クーン ～具体性から見る哲学と歴史
高円寺	20	理性Ⅱ	京都	20	永井均の意識論の紹介と検討
高円寺	21	神学	京都	21	ブレンターノの哲学
高円寺	22	時間・戦争・美しさ	京都	22	京大哲学紀要
高円寺	23	笑い	京都	23	永井均Ⅱ
高円寺	24	性愛	京都	24	現代思想系
高円寺	25	夢	京都	25	ディーツゲン
高円寺	26	幸福	京都	26	ヘーゲルかスピノザか
高円寺	27	空間	京都	27	K.V.サヴィニーの法思想について
高円寺	28	コミュニケーション	京都	28	津元真治の哲学(1)『不純理性批判』
高円寺	29	言語	京都	29	永井哲学について

哲学道場活動紹介

高円寺	30	詭弁	京都	30	自己欺瞞と自己犠牲
高円寺	31	世界観	京都	31	死の恐怖
高円寺 2nd	1	孤独とは何か	京都	32	崎山哲学批判
高円寺 2nd	2	心身問題	京都	33	イスラム教
岡山	1	心的因果	京都	34	馬券科学の哲学的基礎づけ
岡山	2	曖昧性	京都	35	フロイト・ラカンの精神分析
岡山	3	歴史哲学	京都	36	同一性について
浜松	1	哲学	京都	37	廣松渉 I
浜松	2	下とは何か	京都	38	唯名論
浜松	3	アキレスと亀	京都	39	不完全性定理
浜松	4	現代数学における数概念	京都	40	心的因果 II
浜松	5	芸術			
名古屋	1	死／生・狂気			
名古屋	2	マスターアークメント			
長崎	1	自我論の分類			
長崎	2	重さはあるか			
長崎	3	中沢新一『雪片曲線論』			

各地例会での参加者数ですが、3人から最大10人程度の間で推移しています。参考までに比較的長期にわたって活動している「京都哲学道場」の平均参加者数の推移を下に表します。参加者の傾向としては当初世話役としては学生の方が多くなるかと予想していたのですが、実際には大半の方が30～40代の社会人の方でした。



哲学道場活動紹介

活動関係者

哲学道場は多くの方のご協力・ご援助のもとに成り立っており、活動を続けることができいております。以下に各地の活動ごとに主な関係者の方のお名前を列挙させていただきます。

哲学道場全体

関浩成氏（京都・長崎・名古屋・浜松・高円寺の開催協力者／NPO「STUDY UNION」代表）

おかざキング氏（NPO「STUDY UNION」）

hiropon 氏（NPO「STUDY UNION」マイクロファンダ担当）

切腹太郎氏（NPO「STUDY UNION」／ライブニッツ研究会）

谷ロー平氏（公式 Web サイト管理人・「京都数学研究会」主宰）

深草周（世話役として全体を連絡調整および統括／「モノログス」事業主／Skype 読書会主宰）

哲学道場高円寺

市川徹氏（哲学道場高円寺共同主催者／Web サイト「どんさいの世界観」を運営）

京都哲学道場

ネコ好き氏（京都大学哲学研究会）

だいすけ氏（京都大学哲学研究会）

そのほか、京都大学哲学研究会のみなさま。

岡山哲学道場

うらきゅう氏（現地協力者）

浜松哲学道場

横井直高氏（現地協力者／Web サイト「真の哲学体系を求めて Ver.2」を運営）

吉田氏（現地協力者／「浜松雑談哲学勉強会」主宰）

哲学道場活動紹介

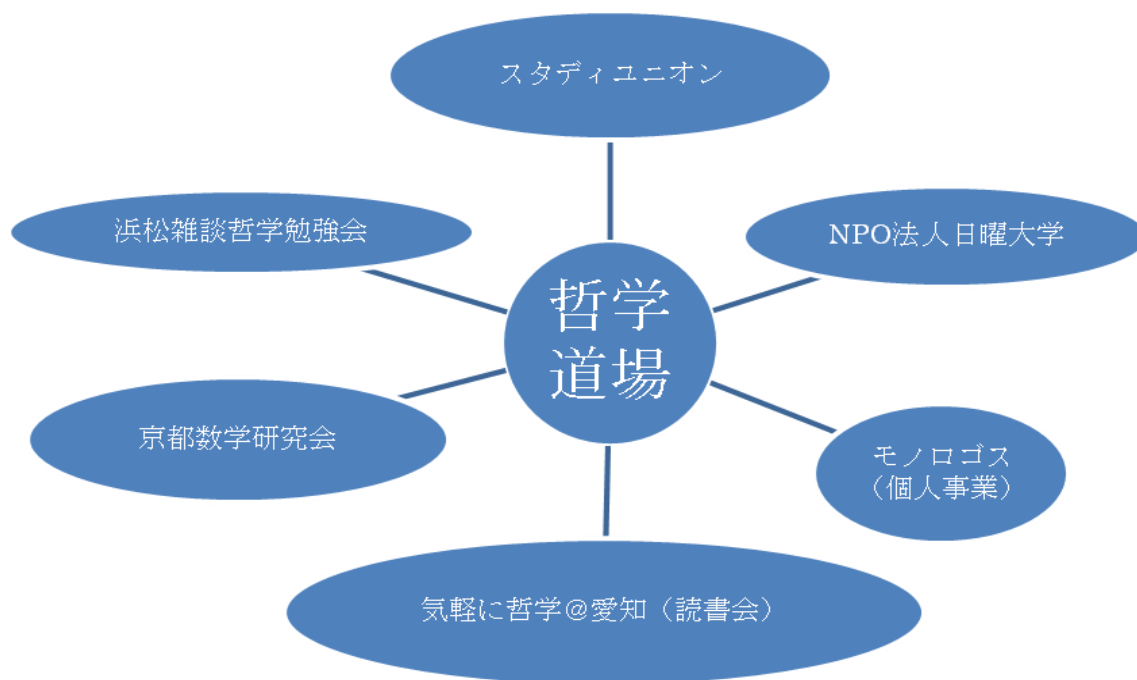
名古屋哲学道場

後藤氏（現地協力者／読書会「気軽に哲学@愛知」主宰）

木村氏（現地協力者）

外部組織との関係

2009年12月現在、哲学道場は下記6組織・活動と関係しております。以下に具体的な内容について記述いたします。



NPO スタディユニオンとの関係

生涯学習 NPO スタディユニオンさまからは活動経費の補助および人材の紹介・発掘について後援を受けています。また、「スタディユニオンのユニット」という名目で広報協力をして頂いております（具体的には毎週発行のメールマガジンへの告知掲載です）。

NPO 法人日曜大学との関係

日曜大学さまはスタディユニオンさまの傘下にある NPO 法人で、学術一般についてアマチュア発表の機会を広く提供されています。そこで、とりわけ当道場の参加者で関心が哲学に留まらない方の受け皿になって頂いております。

哲学道場活動紹介

浜松雑談哲学勉強会との関係

浜松哲学道場を開催した折、現地の参加者の方が当道場の活動に刺激を受け、新たに現地で立ち上げられたのが「浜松雑談哲学勉強会」さまです。浜松哲学道場から派生してはいますが、当道場からは独立したかたちで2008年から運営されています。

NPO サポート事業モノログスとの関係

モノログスさまからは実際の運営実務に関する労働力を提供して頂いております。

京都数学研究会との関係

京都数学研究会さまとは交流関係がございます。たとえば、京都哲学道場の「不完全性定理」の発表などは京都数学研究会さまなしには実現しなかったと言えるでしょう。

気軽に哲学@愛知との関係

mixiを中心に活動されておられる「気軽に哲学@愛知」さまとは過去名古屋哲学道場を開催した際に交流がありました。

今後の課題

今後の具体的な活動課題について、目標マトリクスに沿って記述しますと下記ようになります。

	量的な拡大	質的な向上
ひと	4時間の議論に対して 平均8名程度の参加者	具体的な主催の仕方について ガイドラインを提案する
開催地	大阪哲学道場の開催 新潟哲学道場の開催 香川哲学道場の開催	アジア圏の外国での開催
会場	10名程度参加可能な広さ	各会場でのホワイトボードの確保 交通アクセスがよく、定期的に確実に 利用できる会場を確保する
成果物	内部資料としてこれまでの議論を まとめた冊子を発行する	発表資料の整形・公開 例会の様子の動画配信 英米圏の優れた論文の翻訳
特別企画	哲学書ランキングの継続開催	哲学的な可能性の総体について 出版状況から何がみえるか
社会的影響	哲学研究者へアクセスする 機会・回数を増やす	英語圏の研究者も巻き込んで 国際的な論争を展開する